



里山に育む生きものたち

19 シオカラトンボ (トンボ目 トンボ科)

学名 *Orthetrum albistylum*
(Selys, 1848)

写真・文 / 小菅 次男

▼若いときはオス・メス共にむぎわら色

日本のトンボの中では、最もポピュラーで広く親しまれているトンボです。体長は50〜55mmの中型のトンボで、分布は広く北海道から沖縄まで生息し、国外では中国、朝鮮半島、台湾に分布しています。

羽化したばかりの若いときは、オス・メスともに体の色は淡い褐色に黒い斑紋があるむぎわら色です。オスは成熟すると次第に青みを帯びた灰色となり、白紛で覆われるようになります。メスは成熟しても多少黒味が増す程度です。シオカラの名はオスの方からきていて「塩辛トンボ」の意味です。メスは「ムギワラトンボ」と呼ばれ、私も子供の頃は別の種類と誤っていました。

▼生活

幼虫は平地から山地にかけての小さな水溜り、池、小川、沼、田んぼなどに広くすんでいます。羽化は3月中旬から始まり11月中旬まで行います。未熟なときは、水辺から離れて、草原、路上、人家の空き地などで生活しますから、身近なところで一番長く見られるトンボです。

成熟すると水辺に戻り、杭の先、石の上、水田のあぜ道などに止まって縄張りをつくりまわります。縄張り内にメスが来るとすぐに交尾してしばらく静止します。

▼産卵を守るオス

交尾が済むと、メスは尻尾の先で連続的に水面をたたいて、産卵を始めま

す。水面を一回打つごとに平均で7個ほどの卵を産みます。これを「連続打水産卵」と呼んでいます。この間、オスはメスの上でホバリングしながらメスを警護します。

シオカラトンボの好む水辺は開放的で浅い泥底のあるところですが、ときには人工物にだまされたりします。例えば、畑などに敷かれているビニールシートが反射する光を水面からの反射と間違え、このビニールシートに産卵してしまします。複眼の上側と下側では個眼の大きさや機能も違っていて、上半分は遠くのものを見、下半分は近くのものを見るのに役立っています。

▼泥の中に潜むヤゴ

ヤゴは捕食性で、ミジンコとかイトミミズのような小さな生き物を食べています。そして何回か脱皮して3センチぐらいになります。大きくなればその体に見合ったボウフラとかオタマジャクシなどを食べるわけですが、おもしろいのは、後ずさりして砂や泥の中に体を埋めることです。頭の先だけを土から出していて、餌が近づくとじっと待っているのです。下あごは折りたたみ式になっていて、射程距離に入ってきた餌に、これを素早く飛ばして捕らえます。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤 1080 TEL029-292-1111 FAX029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成25年9月30日現在)
◆総人口 34,195人 (-125) 男 17,087人 (-101) 女 17,108人 (-24) ◆世帯 12,511戸 (-102)

DATA

再生紙を使用しています



※環境に優しい大豆インクを使用しています